**静言研会員の研修状況**

**表１　静言研会員の研修状況**

|  |  |
| --- | --- |
| 【主な行政主催研修】 | 【主な個人参加研修】 |
| ・静岡県通級担当者悉皆研修（年１回）・新任担当者講習会・２年目担当者講習会・地区研修会・特別支援教育コーディネーター研修・事例研修会・指導公開研修会・言語聴覚士による指導参観・市教育委員会指導主事による指導参観・支援学校の自立活動参観・子供理解のための講演会 | ・大学主催の研修会（横浜国立大学、広島大学、信州大学、浜松学院大学、聖隷クリストファー大学等）・言語聴覚士・作業療法士による講演会・公認心理士現任者講習会・臨床心理士研修会・学校心理士研修会・特別支援教育士養成講座・神奈川LD協会セミナー・発達障害支援センター研修会・その他事例検討等の自主研修会 |

※今回のアンケートで、会員の研修方法を明らかにできたことは収穫であった。しかし、自治体に研修開催のお願いをする際に提示していく数的根拠が取れなかった。来年度は、自治体に提示できるようなアンケートを取っていく必要があると思われる。

※行政主催の研修に〇〇回・個人参加研修〇〇回など、回数等を取ることができれば割合を示すことができるのではないか。

以下、数値で示せた場合、行政へお願いする案

1. 会員の研修例と研修の主催について

【行政主催のもの】　【個人参加のもの】表１のように示す

行政主催○○％、個人参加○○％　と円グラフ等で示す

1. アンケート結果から言えること

・個人参加研修の割合が多いことから、自ら学ぼうと研修に参加する担当者が多いと伺える。

・自治体によって年間の研修回数に差がある。（行政主催０回地区～行政主催１１回の地区まで）

・個人参加研修の割合が多いことは、担当者の属人的な研修になっているとも解釈できる。

・担当者の属人的な研修では、系統的に学ぶことは難しく、知識・技能に偏りが生じる。

・系統的に学べる研修制度がないため、初めて担当となった者の負担が大きい。

1. 行政へお願いしたいこと

・担当者に必要な知識・技能が身に付けられるよう、以下にあるような系統的な研修を計画していただきたい。

・「障害に応じた通級による指導の手引き」（平成３０年　文部科学省）

　　　・「通級による指導の担当者の専門性に関する研修コアカリキュラム（案）」（令和３年

　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）

**表２　参考書籍一覧**

|  |  |
| --- | --- |
| 構音障害言語発達吃音その他難聴 | ・山下夕香里、武井良子、佐藤亜紀子、山田紘子『分かりやすい側音化構音と口蓋化高温の評価と指導法』学苑社・阿部雅子『構音障害の臨床―基礎知識と実践マニュアルー』金原出版・湧井豊、藤井和子『側音化構音の指導研究』学苑社・加藤正子、竹下圭子、大伴潔『構音障害のある子どもの理解と支援』学苑社・中川信子『子どものこころとことばの育ち』大月書店・池田泰子、松田輝美、菊池明子『学校でできる言語・コミュニケーション発達支援入門』学苑社・菊池良和『子どもの吃音ママ応援BOOK』学苑社・菊地良和『吃音のことがよくわかる本』講談社・堅田利明『子どもの吃音症状を悪化させないためにできること』海風社・ジョーダン・スコット『ぼくは川のように話す』・小林宏明『学齢期吃音の指導・支援　改訂第２版』学苑社・菊池良和、中野里香、髙橋三郎『もう迷わない！ことばの教室の吃音指導』学苑社・香野毅『動作訓練の技術とこころ』遠見書房・高山静子『脳をはぐくむ「会話」レシピ』風鳴舎・高山静子『ひだまり通信』チャイルド社・剱持弥貴、河合瞳、木島照夫『どうすればことばが育つのか？『９才の壁』を越えるために』全国想起支援研究協議会・木島照夫、菅原仙子、岡野敦子『難聴児はどんなことで困るのか？豊な心とことばを育むために』難聴児支援教材研究会 |
| 発達全般通級LDASDDCDSST愛着その他 | ・井上雅彦、吉川徹、加藤香『発達障害のこどもをもつ親が行う親支援』学苑社・[本田 秀夫](https://www.kinokuniya.co.jp/disp/CSfDispListPage_001.jsp?qsd=true&ptk=01&author=%E6%9C%AC%E7%94%B0+%E7%A7%80%E5%A4%AB)『学校の中の発達障害』SBクリエイティブ・有光興記『発達障害の子の「励まし方」がわかる本』講談社・安田祐輔『ちょっとしたことでうまくいく発達障害の人が上手に勉強するための方法』翔泳社・梅田真理『みんなが輝くために』学びリンク・宮口幸治『マンガでわかる境界知能とグレーゾーンの子どもたち』扶桑社・伊藤修毅『発達が気になる子の性の話』講談社・西川幹之佑『死にたかった発達障害の僕が自己変革できた理由』時事通信社・吉野加容子『発達障害とグレーゾーン』パステル出版・かなしろにゃんこ。・前川あさ美『僕にはイラつく理由がある』講談社・佐々木正美『発達障害の子に「ちゃんと伝わる」言葉がけ』すばる舎・白石正久『発達の扉　上　発達の扉　下』かもがわ出版・熊上崇・星井純子・熊上藤子『子どもの心理検査・知能検査』合同出版・川上康則『発達のつまずきから読み解く支援アプローチ』学苑社・大塚玲『教員を目指すための特別支援教育入門』萌文書林・滝川一廣『子どものための精神医学』医学書院・一般財団法人特別支援教育士資格認定協会『特別支援教育の理論と実践』Ⅰ～Ⅲ　金剛出版・一般財団法人特別支援教育士資格認定協会『LD・ADHD＆ASD』明治図書・発達協会『月刊「発達教育」』・文部科学省『障害に応じた通級による指導の手引 : 解説とQ&A 改訂第3版』海文堂出版　・山田充『子どもの達成感を大切にする通級の指導』・千葉 リョウコ『うちの子は字が書けない - 発達性読み書き障害の息子がいます』ポプラ社・[宇野 彰](https://www.kinokuniya.co.jp/disp/CSfDispListPage_001.jsp?qsd=true&ptk=01&author=%E5%AE%87%E9%87%8E+%E5%BD%B0)『「うちの子は字が書けないかも」と思ったら』ポプラ社・品川裕香『怠けてなんかない！』岩崎書店・井上賞子・杉本陽子・小林倫代『特別支援教育はじめのいっぽ!算数のじかん : 通常学級でみんなといっしょに学べる』学研・井上賞子・杉本陽子・小林倫代『特別支援教育はじめのいっぽ!国語のじかん : 通常学級でみんなといっしょに学べる』学研・井上賞子『学びにくさのある子への読み書き支援』学研・井上 智、 井上 賞子「読めなくても、書けなくても、勉強したい」学研・村井敏宏・山田充『誤り分析で始める！学びにくい子への「国語・算数」つまずきサポート』明治図書・井川典克・奥津光桂・萩原広美智・特定非営利活動法人はびりす『みんなでつなぐ読み書き支援プログラム』クリエイツかもがわ　　・太田信子・田畑友子・西岡有香・竹田 契一『LD児サポートプログラム』日本文化科学社・竹田 契一 ・里見恵子・西岡有香・井上芳子『LD児の言語・コミュニケーション障害の理解と指導』日本文化科学社・澳塩渚『作文と発表が苦手な子への教え方と教材』学研・斉藤代一『特別支援教育をサポートする読み書きにつまずく子への国語教材集』ナツメ社・奥田健次『拝啓アスペルガー先生』飛鳥新社・東田直樹『自閉症の僕が飛び跳ねる理由』東田直樹・岩永竜一郎『自閉症スペクトラムの子どもの感覚・運動の問題への対処法』東京書籍・高木潤野『臨床家のための場面緘黙改善プログラム』学苑社・中井昭夫・若林秀昭・春田大志『イラストでわかるDCDの子どものサポートガイド』合同出版・宮口幸治・宮口英樹『不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング』三輪書店・岡田智・中村敏秀・森村美和子・岡田 克己・山下 公司・上野 一彦『特別支援教育をサポートするソーシャルスキルトレーニング実践教材集』ナツメ社・篠真希・長縄史子『イラスト版　子供のアンガ－マネージメント』合同出版・NPOフトゥーロ　LD発達相談センターかながわ『聞き取りワークシート』かもがわ出版・米澤好史『事例で分かる愛着障害』ほんの森出版・米澤好史『やさしくわかる愛着障害』ほんの森出版・小松正史『発達が気になる子のイヤートレーニング～聴覚刺激で「できた！」を増やす【CDつき】』（ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス）・『保育士・教師のためのティーチャーズ・トレーニング』上林　靖子・河内　美恵・楠田　絵美・嶋田洋徳『学校で活かす認知行動療法』ほんの森出版・松浦直己『教室でできる気になる子への認知行動療法』中央法規出版・本田秀夫『10代からのメンタルケア「みんなと違う」自分を大切にする方法』KADOKAWA・青木高光、杉浦徹、竹内奏子『視覚支援のカード・教材１００』・宮口 幸治『[どうしても頑張れない人たち - ケーキの切れない非行少年たち　２』 新潮新書](https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784106109034)・石角友愛『才能の見つけ方　天才の育て方』文藝春秋・高橋孝雄『小児科医のぼくが伝えたい　最高の子育て』マガジンハウス・喜多好一・齊藤 代一・山下公司『発達障害がある子へのやさしい「個別の指導計画」作成ガイド』・大野萌子『よけいなひと言を好かれるセリフに変える言いかえ図鑑』サンマーク出版・モヤモヤそうだんクリニック『モヤモヤそうだんクリニック』ＮＨＫ出版・塩津裕康『子どもと作戦会議CO-OPアプローチ入門』クリエイツかもがわ・吉川徹『ゲーム・ネットの世界から離れられない子供たち』合同出版・アンデシュ・ハンセン『最強脳』新潮社・アンデシュ・ハンセン『ストレス脳』新潮社・アンデシュ・ハンセン『スマホ脳』新潮社 |

・会員が参考にしている書籍からも、通級担当には専門性が必要であることが伺える。